

青森県立郷土館だより

通巻151号 平成23年(2011)12月22日 Vol.42 No.2

自然観察会～城山をつくる地層と動植物を探そう～



平成23年10月16日(日)曜日、三戸町の城山公園を会場に三戸町教育委員会と共催で秋の自然観察会を開催しました。

当日は、風がやや強く吹いていたものの心配された雨にあたることもなく、県内外から15人の参加を得て観察会を進めることができました。会場となった城山公園は、小山状の地形をした城山に三戸南部氏の三戸城がある公園です。観察会では城山の成り立ちと地形の特徴を中心に観察を行ったほか、三戸南部氏がどのように地形を利用して城を築いたかについても見学しました。三戸南部氏についての解説は三戸町歴史民俗資料館の野田尚志主査にお願いしました。

城山を形成している地層が見られる場所では、細かい砂を主とした地層に小礫や貝化石の破片を多量に含む粗い砂の層が挟まれていること、地層が西に向かって傾いていることを観察しました。礫や貝化石が含まれることから、参加者はこの地層は浅い海底で堆積したと推測しましたが、化石を含まない細かい砂の地層の方が主であることから深い海底での堆積が考えられることを解説しました。そして、礫や貝化石を含む地層は浅い海底から崩れてきたもので、これらの地層は1,000万年以上に堆積し、東方の名久井岳を中心に隆起したため西に向かって傾いていると解説を加えました。参加した子どもたちは化石探しに夢中になり、貝のほかにフジツボの化石もみつけていました。

三戸町を一望できる展望台では、馬淵川とその両岸に広がる河岸段丘を観察しました。河岸段丘は、川の浸食・運搬・堆積作用によって形成された階段状の地形で、かつてそこに川が流れていたことを教えてくれると解説しました。そして、馬淵川と熊原川の合流点にある城山は、両河川の浸食を受けながらも小山状に残ったものだと加えました。このようにして形成された城山を三戸南部氏は城を築く場所として選び、段丘面上には町が形成されました。

東北最古といわれる石垣が残る鍛冶屋御門跡では、敵の侵入を防ぐために地形を巧みに利用して築かれた石垣について野田主査から解説がありました。参加者は、実際に城に攻め込むつもりで門から侵入してみても、その仕組みに納得していました。また、公園内には弓矢の矢としてすぐに仕える節の間隔が長い矢竹という竹が植えられていることや、最も新しい石垣には岩手県の花崗岩が使われていることなども野田主査から解説があり、参加者は興味深そうに聞いていました。

このように、自然観察に歴史的な側面を加えた観察会は初めての試みでしたが、参加者からは自然と歴史の関係がよくわかってとても面白い観察会だったという感想が聞かれました。 (主任学芸主査 島口 天)

重点事業「青森県博物館ロード」展

青い森の宝箱—県内博物館名品大集合!! ○会期 12月9日(金)～平成24年1月29日(日)



青森県博物館ロード (学校向け) ハンドブック
青い森の宝箱—県内博物館名品大集合—
A4版 p78



青森県博物館ロードガイドマップ
表紙A5版 六つ折り両面

平成23年度行事予定

- ミュージアム探検隊 土曜日・日曜日・祝日
- 郷土館クイズラリー 冬休み期間 (この間のミュージアム探検隊はお休み)
- ◎宝探しビンゴ 「博物館ロード」会期中
- ▼づくり回し大会 平成24年1月8日(日)

利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 年末年始 12月29日～平成24年1月3日 1月30日 工事休館 2月～3月
- ◎常設展観覧料 【通常期間】3月～12月 一般310円(団体250円) 大学・高校生150円(団体120円)
【特定期間】1月～2月 一般250円(団体200円) 大学・高校生120円(団体100円)
中学生以下は無料 ()内は20人以上の団体の料金

青森県立郷土館だより Vol.42 No.2 通巻151号 2011.12.22

【編集・発行】青森県立郷土館

〒030-0802 青森市本町二丁目8-14

【TEL】017(777)1585(代) 【Fax】017(777)1588



「本校郷土室を紹介す」
『郷土號』 第三號
 昭和十年二月五日發行 青森縣師範學校交友會 23cm p293

青森市郷土室を 紹介す 郷土關係書目 一般	郷土研究の對象 八皿	南部傳説 氣象と人文との關係について	十湊の盛衰について 斗賀神社の研究	寶歴度飢饉と救済策 南郡に於けるアイヌ地名	本縣に於ける第二部 郷土藝術並に民謡	郷土藝術並に民謡 戸建澤神社の岩穴	佐藤正行翁略傳 佛ヶ浦觀察記	博物學上より見たる郷土の迷信 縣内に於ける季節的出稼の一例	戊辰の役と本縣 本縣の犯罪について	本縣に於ける主なる訓言 郷土教育の考察	郷土教育の志向 郷土学校の訓調	序 第一部 青森縣師範學校(長)
--------------------------------	---------------	-----------------------	----------------------	--------------------------	-----------------------	----------------------	-------------------	----------------------------------	----------------------	------------------------	--------------------	---------------------



民俗の調査に集落を訪問すると、各地に終戦前の当時の小学校が記録したという土地の沿革、生活習慣、年中行事、伝説昔話の口承文芸などを記した「郷土誌(研究)」のガリ(謄写)版刷りの冊子に出会い、その質の高い郷土研究の由来に興味を持っていたが、青森県師範学校が、郷土研究に領導したもののなか、研究誌『郷土號(第三號)』の「本校郷土室を紹介す」の「附記」に「…先般來縣下小学校十數校よりその苦心の研究になる郷土史郷土資料等寄…」とあり、同号は郷土研究を特集したものであった。

「本校郷土室を紹介す 木村美根三
 本校郷土室の内容を知らないものが多い、知って而してその不完全の部分を補って戴きたい。
 我が郷土の誇り、我が郷土の文物を我等が郷土室の延長せしめよ。
 序説
 郷土室は今や模様替えを試みつつあり。曾ての自然人文の二室は合して一室となし、他の一室は特に本縣の特徴とする所のものを、その自然に関するものたると人文に関するものたるを間は全てを陳列することにした、即ち青森縣を一望の中におさめ様と云うわけである。
 先づ全面の壁には巾一間長さ三間の大鳥瞰圖大体南部津軽の二地方にわけ夫々特産品を陳列比較研究に便ならしめた。未だ未完成なれど本誌発行の頃迄には完成の見込である。鳥瞰圖の前には大いさ凡そ一坪の立体模型あり、大日本帝國陸地測量部地圖縮尺十万分ノーに準據した精巧なもの。
 而して各細目に亘つて研究の爲めには各種の研究資料を準備しつつあり、次ぎにその大綱を紹介してみたいと思ふ。

「 序
 郷土愛、それは恐らく人間の本能であらう。…/ 此の感情、この『郷土を愛する本能』を忘れているところに現代の缺陷があり、現代社會の混乱があるのではあるまいか。…/ 故に郷土教育は眞に人間味教育であって單なる郷土知識注入を目的とするものではない。郷土愛の涵養ではあるが偏狭な郷黨根性の養成ではない。…/ 此處に見る所あり、本校校友会雜誌郷土號第三號を發行するに当たり、兎角從來閉却され勝ちな郷土人文に関する研究を中心として収録し一本となした…
 昭和十年二月 青森縣師範學校長 熊谷美登利 」

「 郷土研究の對象 岩藤 卯一郎
 …研究すべき對象を捕ま得えずに迷って居る人々を多々ある様に見受けられる。そこで己が向き向きに研究すべき題目を捕らえて、各自一層の精進を歡める導きとして、聊か僭越ながら次ぎに記す。/ わが郷土のあらゆる存在が、有形無形を問わず對象となるのであるが、便宜上二つに分類して、自然と人文とに分けて、其の各に綱と目を示せば、大體次ぎの様になるのである。
 自然に関するもの。
 1、本縣ノ位置境界面積區劃の概要/…/10、本縣の鑛物岩石ノ種類、分布、實物標本等
 人文に関するもの
 1、縣史ノ郷土史、郷土年代圖等/…/35、本縣ニ関する圖書蒐集
 …郷土研究の對象には一目瞭然の表に作り得るものもある。この得ないものもある。この得ないものを主として、尚研究發表の機關として郷土誌が存するのである。…」

一、土器、石器類
 まづ土器石器類についてであるがこれを採取地別にしてみると次のとおりである。
 東郡ノ蓬田村廣瀬 土器二…
 西郡ノ森田村オイヌカ館 彌生土器祝部土器一…
 南郡ノ山形村 土器一、石皿一、石棒の破片…
 北郡ノ中里村 石器一、…
 上北郡ノ天間林村貝塚 縄文土器三、縄文式アイヌ式土器一、土器三、石器二、石鐘鐵滓一、貝類四、骨及齒…
 下北郡ノ田名部町 石器一、石斧四、石鋸一
 三戸郡ノ向村小向 縄文土器一、石器一、經石一…
 青森市ノ青森師範農場 縄文土器一
 即ち、中郡、弘前、八戸を除いて各郡を網羅してののであるが、不足の部門は切に諸君の御奮闘によって完成を期したいものである。

二、岩石鑛物
 次ぎに岩石、鑛物類を産地別に纏めてみよう。
 東郡ノ一本木村 玄武岩一…
 西郡ノ森田村 輝石安山岩一…
 南郡ノ大鱒町 紅貝一、黄鐵鑛一…
 北郡ノ中里 泥炭一…
 中郡ノ岩木村 石炭華一…
 上北郡ノ四和村瀧ノ澤 砂岩一…
 下北郡ノ恐山 雞冠石一…
 三戸郡ノ五戸川上流 琥珀一…
 弘前市 縞瑪瑙二、片岩一
 八戸市ノ水産學校海岸 玢岩一…
 八甲田山 石芙粗面岩質凝灰石一、安山岩一
 以上の通りであつてこれを總括するに、化石四十九種、鑛物四十七種水成岩五十種、火成岩四十九種。尚本年度採集のもの数多あり目下整理中である。
 三、動植物
 動物之部
 哺乳類 一五種 鳥類 六六種 爬虫類 一四種
 兩棲類 二二種 魚類 二九種 被囊類 一種
 昆虫類 一九一種 甲殼類 一二種
 頭足類 五種 斧足類 五一種 服足類 五二種
 擬軟体類 二種 蠕虫類 一種 海鼠類 一種
 海膽類 五種 人手類 一種 水母類 一種
 珊瑚類 一種 海面類 一種
 植物之部
 八甲田山植物 二〇六種 岩木山植物 五〇種
 本縣產救荒植物 四九種 本縣產藥用植物 一四八種
 本縣產有毒植物 三六種 本縣產歸化植物 三二種
 本縣產雜養植物 二七種 本縣產園藝植物 一四八種
 植物之雜 六種 本縣產海藻 57種
 合計七五九種
 今これを前例にならひ採取地別にすると
 東郡ノ油川 イガイ ルリガヒ
 西郡ノ深浦 カミガヒ、サメユ、オホヒビガヒ/…
 南郡ノ竹館村 雀蜂ノ巢、牛蛙、三光鳥、日光サンセウワフ
 南郡ノ七和村 サワガニ
 中郡ノ岩木川 ウミウ
 藤代 イタチノミイラ
 上北郡ノ…/尾駁沼 沼鯉/…
 下北郡ノ…佐井 アヲゲラ/…
 三戸郡ノ…/田子村 ハナイタカノ葉
 青森市ノ…/青森公園 黒松ノ集果、櫻及杉ノ天狗果病/…/八甲田山 アワダイシャウ…/他二八甲田山植物標本甲乙二冊計二百三種八甲田山昆虫一九〇種
 八戸市 オホヒタチオビ…/
 他に岩木山植物標本五〇種を始めとし各種植物標本錯葉集一〇冊、八年度卒業越野君採集海藻標本二十九種一冊あり、又縣立相坂孵化場よりの紅鱒、鱒の卵發育の順序。津軽海峡産善知鳥、金華山沖合よりの長須鯨ノ鬚及鰭鯨ノ鬚あり。
 四、圖表統計類
 各種統計資料は別に之を110×80CM 或は 80×60CMの枠に張りつけ特定の棚に収め 適宜必要に應じ之を引き出し、研究に便ならしめてゐる。現在所藏するもの次の通りである。
 自然の部
 一、青森市の晝夜 ~ 二四、積雪圖
 人文の部

一、青函船客 ~ 六一、各産業組合別成績表
 以上多くは昭和六年度、或は七年度現在による調査結果で何れも諸兄の努力の賜であるが、これを常に新たなものにして行く爲にはただ努力の助力を待つのみ生徒諸君並に同窓各位の一層の御援助を願ふ次第である。
 五、農林産物・各種加工産物等
 さて以上の他、重要なものを總括して述べてみると、農林産物としては、六年度標準米七種、果物アルコール瓶詰め二九本、繭二十種、木材標本二十種。
 加工産物としては、木工品十七種、竹細工、藁細工等四十三種、こぎん、南部さき織、南部菱織悪戸焼、八幡駒、八幡細工、南部塗物、津軽塗工程見本並其塗料。
 その他地理模型して生徒作品十三種、他に先に説明せる青森縣大模型、奥羽地方模型、奥羽地質模型等がある。
 六、結語
 之を要するに、本校郷土室には今や既に諸君の研究の對象として相當の資料が集まつてゐると云ふ。まだ不完全は第二である。完全不完全は第二である。要は如何に之を活かすかにある。一而も之を活かす事によって益々完全に近づくのであつて、これより他に完成に近かしめる道はない。
 諸君よ、來して陳列せられるかを発見せらよ、そしてそこに新な郷土感情を起こして戴き度い、郷土の一木一草、そこには諸君の先祖の血が、兩親のさ々やきが聞ゆる筈である。
 郷土より何者を代表者を選出して戴きたい。選出條件には何等の制限がない、ただ諸君の一舉一足を待つのみ。
 附記
 本校郷土室を紹介せんとすの意圖の下に以上ものしてみたいけれど甚不完全な紹介になつて相濟まない、殊に先般來縣下小学校十數校よりその苦心の研究になる郷土史郷土資料等寄贈になつたのであるが之を發表せしめた事は恐縮に堪えない、何れ整理つき次第郡別にまとめて御目にかけていたいと思つている。
 尚此の際郷土誌、郷土資料等御寄贈下さる様諸君の母校に御話願ひれば甚幸である。
 けれど甚不完全な紹介になつて相濟まない、殊に先般來縣下小学校十數校よりその苦心の研究になる郷土史郷土資料等寄贈になつたのであるが之を發表せしめた事は恐縮に堪えない、何れ整理つき次第郡別にまとめて御目にかけていたいと思つている。
 尚此の際郷土誌、郷土資料等御寄贈下さる様諸君の母校に御話願ひれば甚幸である。」

『郷土研究資料目録』
 昭和十二年二月五日 發行 青森縣師範學校郷土室 19cm p97



「 はしがき
 本目録は昭和六年から昭和十一年末までの間本校に於いて研究蒐集せる品目を目次の如く圖書、標本、加工、産物、模型、圖表、器具に類別し、一般の研究に資せんが爲に編輯せるものにして、もとよりその類別方法は不完全たるを免れぬ。それが完成は他日を期したいと思ふ。
 昭和十二年二月 青森縣師範學校郷土室
 (研究員 北川 達男)